

戦評用紙

大会名	令和4年度 第73回山形県高等学校総合体育大会兼全国高等学校体育大会山形県予選会		
-----	--	--	--

日時	2022年6月5日14:40～	区分	高体連
----	-----------------	----	-----

チームA				チームB
羽黒高等学校				山形中央高等学校
124	28	1Q	11	78
	28	2Q	18	
	37	3Q	14	
	31	4Q	35	
		延長		

【戦評】

決勝戦は、1月に行われた山形県新人大会決勝と同じ、羽黒と山形中央(以下、山中)の一戦となった。

スターティングメンバーは、羽黒 #2、#10、#12、#14、#16、山中 #12、#13、#14、#18、#51

1P 羽黒、山中共にマンツーマンディフェンスでのスタート。出だしは羽黒#14、#10のジャンプシュート、山中#51のスリーポイントを中心に、お互い思い切りのいいシュートで得点を重ねる。その後、羽黒が激しいディフェンスから、#12の速攻レイアップと#14のバスケットカウントで勢いに乗る。続けて羽黒#10のスリーポイント。ここでたまたま山中タイムアウト。タイムアウト後、山中#51の連続シュートで追い上げを見せるが、羽黒の勢いを止めることができず、28-11の羽黒17点リードで1P終了。

2P 1Pの流れを打破したい山中は、ディフェンスを2-2-1のゾーンプレスに切り替え、#51のドライブを中心に得点を狙う。一方、羽黒は#10の連続シュートと#16のドライブで主導権を握らせない。山中もドライブで果敢に攻め込むが、得点につながらず、開始5分、山中1回目のタイムアウト。タイムアウト明け、羽黒が、#10、#3、#2の連続スリーポイントで点差を広げる。山中も#51のドライブと#18のスリーポイントで必死に食らいつく。最後には羽黒#2が3Pのブザービーターを決め、56-29の羽黒27点リードで前半を終える。

3P 開始早々、山中が#12のジャンプシュートで得点。山中はその後のディフェンスでもチャージングを獲得。一時は流れを掴みかけた山中だったが、羽黒も#2を中心に冷静にオフェンスを組み立て流れを渡さない。中盤、羽黒は#3の3連続スリーポイントで点差を広げる。山中も#12のジャンプシュートで返すも、粘り強いディフェンスとリバウンドで羽黒が流れを渡さない。93-43の50点リードで最終ピリオドに臨む。

4P 羽黒の勢いは止まらない。激しいディフェンスからの速攻で得点を重ねていく。山中も、#18の連続得点で抵抗を見せるも点差は縮まらない。40分間、自分たちのスタイルを貫き、戦い続けた羽黒が見事優勝を勝ち取った。

戦評者 成澤翔太郎、村上魁人

戦評用紙

大会名	令和4年度 第73回山形県高等学校総合体育大会兼全国高等学校体育大会山形県予選会		
-----	--	--	--

日時	2022年6月5日 12:40 ~	区分	高体連
----	-------------------	----	-----

チームA				チームB
山形中央				山形学院
79	20	1Q	17	65
	19	2Q	14	
	22	3Q	10	
	18	4Q	24	
		延長		

【戦評】

<p>決勝に駒を進めたのは、山形中央(以下、山中)と山形学院(以下、学院)となった。 スターティングメンバーは山中(白) #3, #24, #25, #27, #53 学院(青) #4, #5, #6, #9, #10</p> <p>1P お互い、マンツーマンディフェンスでスタート。山中#24のミドルシュート、学院#6のゴール下で、試合の幕が上がる。山中がハードなディフェンスから#27のドライブ・スリーポイントで点数を重ねていくが、学院も#10の2連続スリーポイントで勢いに乗り、お互い一步も譲らない展開が続く。山中が粘り強いディフェンスからの速攻で点差を広げる。しかし、学院も#9のドライブ、#7のフリースローで粘り、20-17、山中リードで終了。</p> <p>2P 開始2分、学院は#4、#6のフリースローと#9のドライブで22-23と逆転に成功する。しばらく重苦しい展開が続くが、開始4分、山中がオールコートマンツーマンで仕掛ける。山中#3のバスケットカウント、#24の3連続ゴール下で30-27と再び逆転。開始7分、山中の勢いを止めるため、学院2度目のタイムアウト。その後、山中は#27を中心に得点を重ね、学院も山中のファールを誘い、フリースローで得点を重ねる。前半は39-31、山中リードで終了。</p> <p>3P 運命の後半戦。学院は#4のジャンプシュート、#5のフリースローで得点を重ねるが、山中#3、#24、#53が立て続けに得点し、開始5分、51-36で学院タイムアウト。タイムアウト明け、山中はオールコートマンツーマンで相手の8秒オーバータイムを誘い、流れに乗る。学院は#4のドライブ、#6のゴール下で粘りを見せるが、強気に攻め込む山中の勢いを止めることができず苦しい展開。山中#25、#24が着実に得点を決め、61-41の山中20点リードで最終ピリオドに臨む。</p> <p>4P 学院は#6、#9が果敢に攻め続け、#5のスリーポイントで勢いに乗る。開始4分、山中#27のスティールから#3の連続シュートで学院たまたまタイムアウト。選手層が厚い山中は、メンバー交代後もオールコートマンツーマンでプレッシャーをかけ続ける。学院は#4がバスケットカウント、スリーポイントと立て続けにシュートを決め、意地をみせる。しかし、山中の勢いを止めることができず、79-65で試合終了。激しいディフェンスから自分たちのペースに持ち込んだ山形中央が見事優勝を勝ち取った。</p> <p>熱戦を繰り広げた両チームに拍手を送りたい。</p>
